

令和5年10月

先日のスポーツフェスティバルは大変な盛り上がりでした。中央高生の素直さとバイタリティを強く感じました。今年が最後の3年生にとっては“胸アツ”でしたね。

○ 勉強と探究の違い

本校では「総合的な探究の時間」を中心に探究活動に力を入れています。9月には、山口大学の富本幾文教授のチーム6名の方々に来ていただき、2年生の探究活動に対してアドバイスをいただきました。探究とはこういうふうに進めるのかと改めて自分ごととして腑に落ちた人も多かったのではないのでしょうか。情報を得るために、現地に行くこと、インタビューをすること等を強調されていた先生もおられました。

勉強は分からないことをなくすこと。一方、探究は分からないことがあったら、他にもハテナが連鎖するように増えていくことです。そのコツは、「とことん集めること」とそれを「とことん続けること」です。特別なことではなく、誰にでもできることの「数を増やす」だけで説得力がグンと増すのです。

校長講話では、探究の例として、当時中学生だった田上さんの蚊の研究と、当時小学生の倉持さんの桃太郎の研究を紹介しました。田上さんが蚊を4000匹家の中で飼っていたことや、倉持さんが図書館の桃太郎関係の本を200冊読んだことに驚いた人もいます。

探究学習を通して身に付けたスキルや経験は、皆さんに学力をつけるだけでなく、3年生になって志望理由書の作成や小論文対策、総合型選抜における面接やプレゼンで発揮されます。今の探究に熱中することが、あなたの未来を切り拓くことにつながるのです。

○ 立ちすくむわけにはいかない 「不安常住」と「恐怖突入」

就職面接や推薦入試、公務員試験が始まっています。受験を前に不安を訴える3年生が多くいます。1・2年生にも成績のことや友人関係、将来のことを考えて不安を抱いている人もいます。世界的にも、戦争や地球沸騰化、経済の低迷に災害の多発など、「こんなことが現実に起こるのか」という時代の中で、不安の材料には事欠きません。不安から逃れて安心したいと思うのは自然な感情です。

そもそも、不安は生活していく上で避けられないものです。高速道路とトンネルのような関係だと例えた人もいます。一つのトンネルを抜けてホッとしたのもつかの間、また次のトンネルが表れるのと同様に、人生と不安は共存しています。ハラハラドキドキしたり、おろおろしたり、恐ろしがったり、悲しんだり、驚いたり、不安がったりするのが普通です。人は常に不安の上に住んでいるのです（不安常住）。常住しているので逃げるすべはありません。無理に安心しようとあがくより、不安を身にまとして生きていくよりほかありません。

不安が異様に膨らみ、極限の不安の前で立ちすくむときだってあるでしょう。そのときは、エイヤとばかり不安と恐怖の中に突入するしかありません（恐怖突入）。

「不安常住」で過ごしていく、恐怖心が起これば、「恐怖突入」していく。この繰り返し

が実生活です。不安が訪れるたび、ビタミン豊富な食べ物が供されたと思って食べ、体力増強に努めましょう。不安なのは自分一人ではありません、信頼できる大人や学校を頼って話をしてください。(参考文献：帚木蓬生『生きる力 森田正馬の15の提言』朝日新聞出版)

○ 緊張への対応 余計なことは考えない

面接をはじめ、人前で話すとき、私は緊張します。それは自然なことだと思っています。緊張してはいけない、恥ずかしい、何とかせねばならない、と考えるのは、余計な心配です。緊張を鎮めようとするともますます緊張してしまうからです。

それではどうしたらいいのでしょうか。

余計なことを考えないことです。緊張しながら話せばいいのです。頭が真っ白になったり、声が上ずったり、顔が赤くなったりするかもしれません。それでいいのです。足がふるえていても、声がかすれていてもいい。「あっ、ふるえているな」と思えばいい。情けないとか、人に笑われるとか考える必要は全くありません。そうした考えこそが悪です。何を恐れる必要があるでしょう。思いわずらう必要はみじんもありません。緊張しながら、自分が話したいことを話すまでです。

<ネガティブ・ケイパビリティ>

今、ネガティブ・ケイパビリティが注目を集めているらしい。私がこの言葉を知ったのは7年前、長府高校に勤務していた時に教育相談の先生から教えていただいた。効率性を求める“タイパ”が流行し、AIが瞬時に質問に答えてくれる時代になって、真逆の概念が注目を集めていることが面白い。

ネガティブ・ケイパビリティとは、「負の力。どうしても答えの出ない事態に耐える力」という意味です。つまり、すぐに答えを出さず、迷ったり、悩んだりする“モヤモヤする力”こそ大切だという考えです。看護学校や大学の入試問題でも出題され始めています。

無理に答えを見つけようとしなくてもよい、むしろ悩みの中にこそ、生きる意味があるのだ。進路にしる人間関係にしる、すぐに答えを出せないこともある。それでもいいのだ、モヤモヤに耐え、じっくり向き合うことを続けていくのも<力>なのだということです。

皆さんが直面する試験では、決められた時間の中で、いち早く正しい答えを出すことが重視されます。一般社会においても、とかく「テキパキ、ハヤク、デキル」人が重宝されます。しかし、人生はそれだけではないということを知っておいてほしいと思います。

○ 校庭紹介 (10月)



ジルラやマリーゴールドが輝いて、花壇が見事です。



体育館前のソテツコーナーです。きれいにまれています。